

教務だより

2012年2月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

ささやかだけれど、「絆」

茗溪塾塾長 宇野 雅春

朝が明けたばかりの冷え切った空気に朝もやがうっすらとかかっています。前に続く学校への坂道を過ぎると暗いうちから陣取っている塾の先生たちが、何となく手持無沙汰な顔で立っています。腕章を付け、旗を持って立つと、隣で激励している若い先生達の会話が聞こえてきました。男女2人で来ているのだけれど、たった一人しか生徒が来ないということも会話から聞き取れます。初めての早朝激励らしく、緊張を会話でごまかしている感じです。

男の先生が、「僕が来ていることで、喜んでもらえたら、うれしいんだけど…」と何度も言います。「なんか喜ばれない気がするなあ？」と繰り返します。女の子が一人受験するらしいのですが、見ると、さほどイケメンでもなく、「人気」がないんだろうなと思わせる風体(失礼!)です。「絶対、喜びますよ…」という女の先生の相槌も、何となくお世辞っぽい感じです。

生徒がまださほど来ていない中で、目の前の道路にタクシーが止まりました。緊張した面持ちの親子が降りてきます。全員の注目がそこに集まり、たくさんの出迎えにちょっと照れ笑いです…。その時タクシーのクラクションが鳴りました。タクシーの運転手が慌てている様子です。

校門に向かおうとしていたお父さんが、急いでタクシーに戻ります。たくさんの塾の激励の先生たちが注目しています。どうやらタクシーにお金を払うのを忘れていたようです。

注目の中でもさすがお父さんは、平然と笑顔です。なんとって今日は受験当日です。照れている場合ではありません。と、そこへもう一台のタクシーが止まりました。

今度は、塾の先生っぽい人。慌てて降りた瞬間に、小銭入れから小銭がばらばらとこぼれ落ちました。タクシーが10円玉数枚を引いたような形で去っていきます。「あーっ」と、たくさんいる激励の先生たちからどよめきが起こりました。その時です。隣に立っていたさっきの男の先生が駆け寄り、道路に散った小銭を拾うのを手伝い始めました。

同じ塾の先生なのかな?とっていると、落とした本人はお礼をして別のグループの方へ去って行きました。なかなか親切で行動力のある若者だな…とっていると、またその男の先生が、「これ、気持ち悪がって受け取ってもらえなかったりするかな?」と、女の先生に話しかけています。生徒に手渡すものがポケットの中にあり、それが中のホッカイロによって温められているらしいのです。その生温かさを女の子が気持ち悪がるのではないかということらしいのです。今度は女の先生がきっぱりと言いました。

「寒いから、温かい方が絶対いいです!」

だんだん人の数が増え、押し合いになるくらいに混雑したところ、彼らが待っていた生徒がきました。大柄でしっかりした印象の女の子です。お母さんも大喜びで、生徒もうれしそうに笑っていました。男の先生が心配したような事は一つもなく、お母さんもパワーをもらいなさい…と子供を促しています。「落ち着いて!」「がんばって!」と声がかかります。男の先生は緊張もあつてか、顔が真っ赤になっています。その一人の生徒を見送って、2人の先生方は帰って行きました。そのたった一人を応援するのに一時間半も待っていたのですから、私の方も、他人ごとなのに「良かった。」と思いました。

受験の早朝激励という本当に些細なことの中にも人とのつながりがあります。「がんばって!」とかける声に、一瞬でも強い「思い」があるということです。ささやかだけれど、これも「絆」と言えるものかもしれません。

冷えた体に、朝の光があふれた温かい電車の中は天国です。帰りの電車は、朝の通勤時なのにガラガラです。「次」のことに思いが向かいます。ここから高校入試、大学入試が本格的にスタートです。まだまだ受験の季節は続きます。小さな思いかもしれませんが、今この時の生徒たちのために、それを届け続けたいと思います。